

堕つ滅式

墮落鬼墮ち編



全ては教祖様の
御心のままに♡♡

みんなのおかげで
出会えたわ：♡♡
身も心も捧げられる
運命の御方に♡♡

R18
ADULT ONLY
成人向け作品につき
18歳未満閲覧禁止



なんだ？
もうイクのか？
しのぶw

ははひっ♡
教祖様♡おあつ
も：申し訳っ♡
ほっおッ♡

ひ♡ひんぽ♡
教祖ひやまの
デカマラおひんぽ
すごすぎれ♡もう♡



教祖ひやま
好き♡

好き♡
しゅき♡



中出し♡
人バ

人バ



それで
首尾のほうは
どうだ？

あーいー



ご安心ください♡
恋柱
甘露寺蜜璃…

すでに教祖様に
献上するための
準備は
整っております♡

彼女もまら
偉大な鬼願教の
教えにふれ♡

私たち同じく
真の気づきに
至ることに
なるでしょう♪



なるほど
それは
楽しみだ

教祖様

恋の呼吸 伍の型
揺らめく恋情、乱れ爪

陸の型

渦桃

ん
最後の一体
終わりね

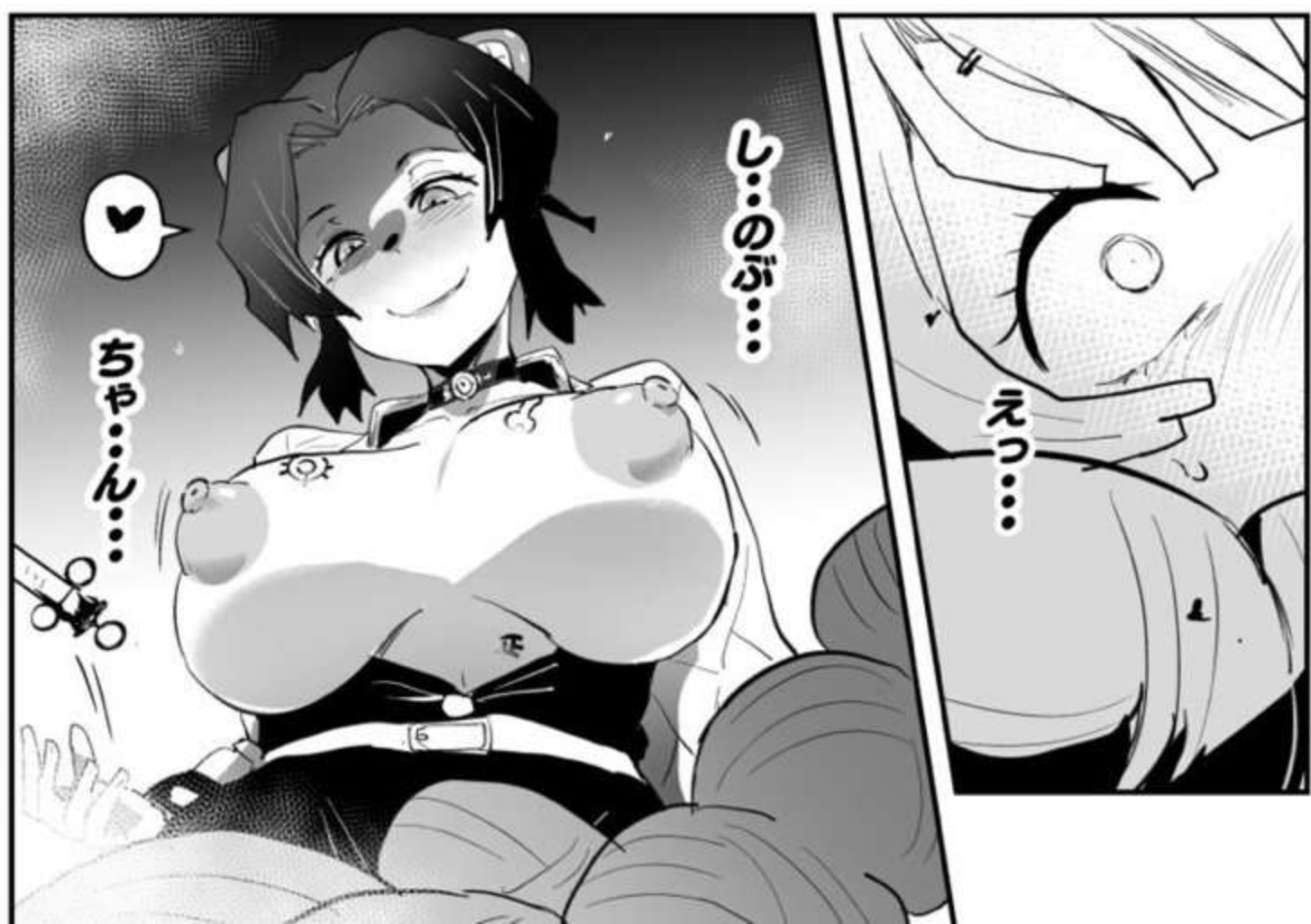
うん
でも
なんだったのかしら
こんな数の鬼……

花の呼吸……









はい：私は訓練に
新種の鬼を倒すため
鬼殺隊の特殊訓練に
来ています

そう
ドスケベの呼吸の
習得のためですね
それはつまり
どういうこと？

セックス
中出し・交尾
生ハメ……♡

ちんぽ鬼を
倒すためには
精子を絞りだす
しかない……から

いいですよ
甘露寺さん
その調子です♡

そしてあなたに
ちんぽ稽古をつけて
くれる方が……

ぬぎ

はい……
くれる方が……

はい♡

舌を
出しなさい

鬼殺隊
御当首……

お館様
ですね♪

んぎゅ

おやから
ひゃま……♡



まずは本格的な
訓練の前に
まんこの柔軟だ

奥までほぐすから
今はなにも考えず

ちんぽに全集中して
ハメられてイク感覚を
覚えなさい!!

ふむイクのを
怖がっているな
蜜璃

ちんぽイキは
味方だ大丈夫
イキなさい

教祖様のガチ
ちんぽプレス
うらやましい

イクんだほらっ
ちんぽを
受け入れなさい
受け入れろ

イクッ
蜜璃

鬼殺隊の柱が持つ
お館様とやらへの
強い思いを利用する
面白い趣向だ
しのぶよ

ありがとうございます
ございます
教祖さま……♡

この
フズッ♡

教祖様の
体液を介した
心操の血鬼術

そして快楽を
栄養に育ち完成すれば
身も心も全て教祖様に
ささげるようになる
鬼淫紋♡

この調子なら
かつての私同様

彼女の中が
教祖様への愛で
満たされるのも
時間はかからない
でしょう♪

今から
楽しみだ

はい♡
彼女もきつと
鬼願教に尽くす
最高の牝柱に……

これが
おちんぼ汁♡

おちんぼ汁♡

頑張れ頑張れ
お・ちんぽお♡

中出し
ハメハメ♡
ザーメン
びゅっ♡

んっ♡

んっ♡

デカちゃん♡
ドスケベ
セックス♡

私の便器
おまんこ
やっつけて♡

敵の好みの衣装で
ちんぽに直接の舌ノ型
覚えておきなさい

ただし

ぽっ♡

んっ♡

このような
敵からの
不意の一撃には
気を付けるように

鬼を倒すはずが
相手のちんぽの
虜になつては
元も子もないからね

式ノ型は
乳穴…

ちんぽ

ちんぽ

これは蜜璃の
得意な型だな
だから少し
厳しくないこう

目を隠すことで
より強くちんぽを
感じてもらう
形・味…
ちんぽの全てを
感じ覚えなさい

んも♡

はひ♡お館様の
ちんぽいっぱい
感じまじゅう♡

んっ♡わかりゅ♡
ちんぽ汁♡お館様汁♡
でるの分かりゅっ♡
でるっきへっ♡

のまへへ
くらはい♡

ザー汁大好き
おひんぽ
乳穴柱れっす♡

へっ♡
ピース♡
いっぱい♡
れまひら♡

教えたばかりの
ダブルピースを
使うとは流石だ
恋柱…

いや
ドスケベ
乳柱かw



伍ノ型
ケツハメ

教祖様の
お手でもっと
私のブタケツ
叩いれ
くらはいブヒ♡

この穴を使える
ことで奉仕の幅も
ぐっと増える

ちんぽ鬼を倒す
変態ブタ柱に
とってはかかせぬ
重要な型だ

ケツ叩き
しゅきブヒ♡

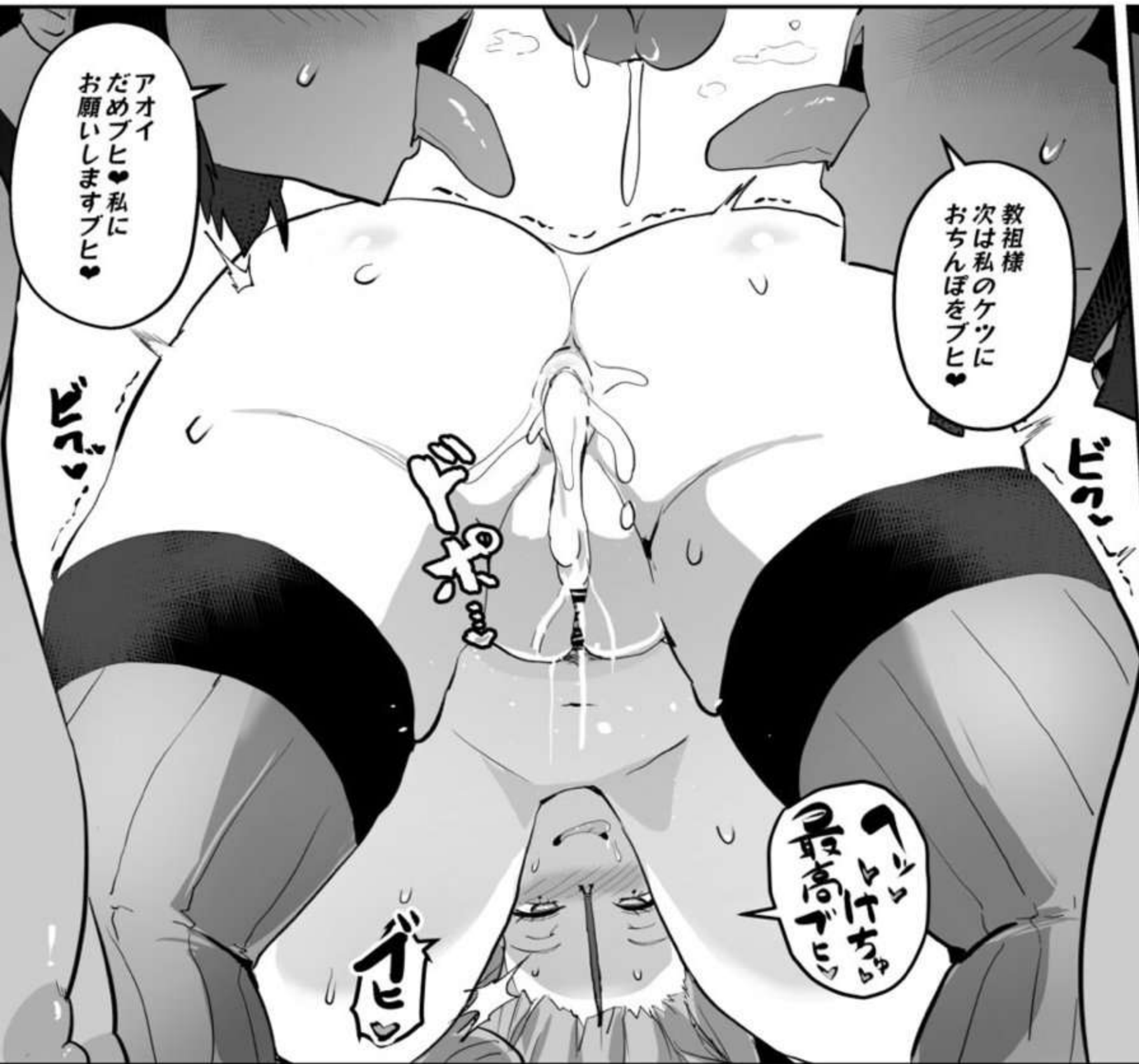


蜜璃ケツ穴での
本気アクメの感覚を
体と脳に刻みこめ

こいつらのように
ケツ媚びするだけで
思い出しイキする
くらいにだ

ちんぽの
ためなら
なんでも
やるぶひ♡

おめえ
の
ケツ
叩
き
ブ
ヒ♡



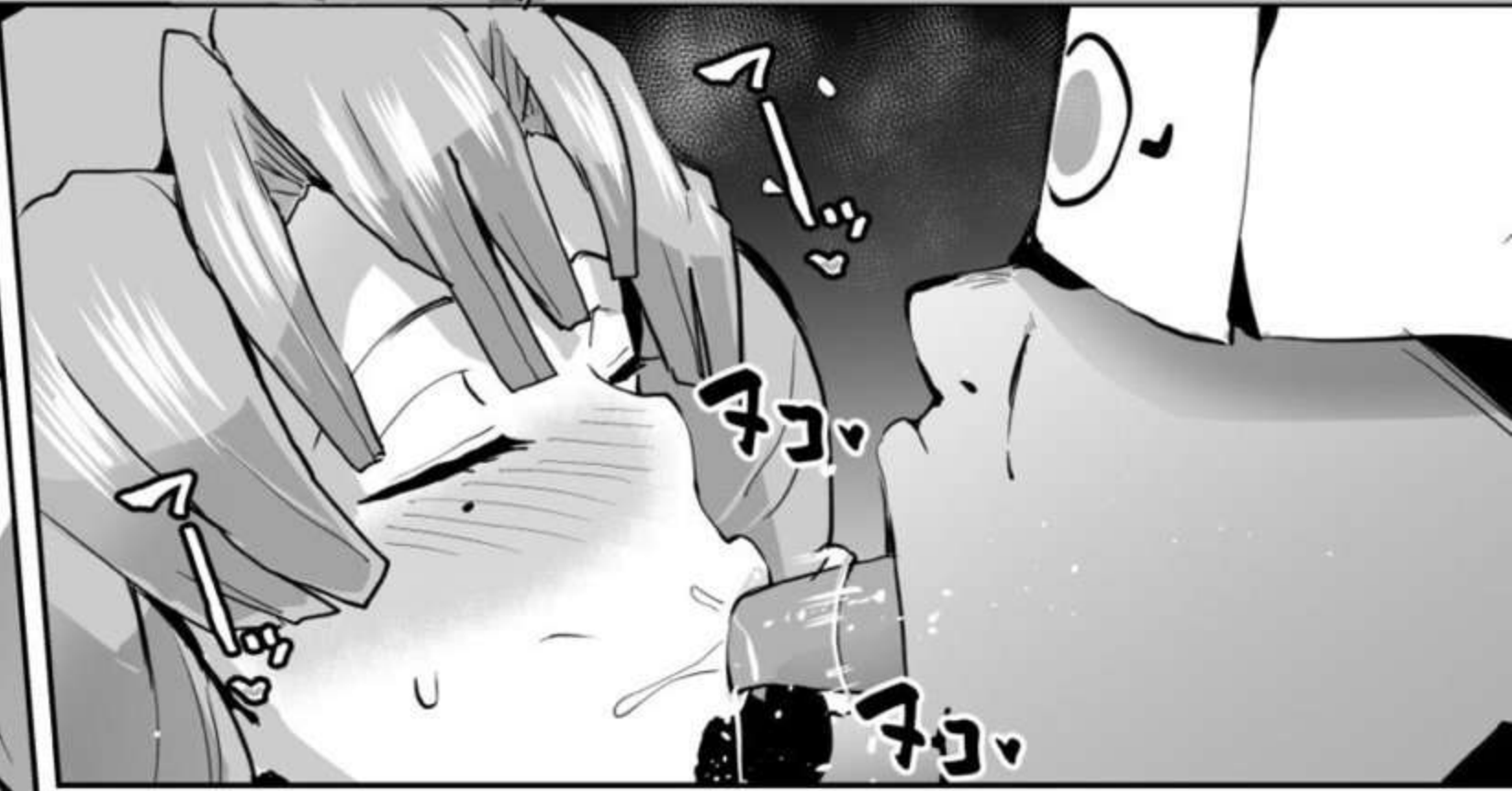
肆ノ型
エロ舌交尾

接吻は
舌を絡ませる
セックス…
わかるな

はっい♡

んんん♡
んんん♡

ぽ





キスだけで
イッたか
牝らしくなって
きたな
もうじきかw

顔中お館様の
匂い……イクっ
キスしゅご

お館様
しゅき……♡



ここ数日の
厳しい稽古に
よくついてきた
蜜璃

今日は仕上げ
牝柱稽古を
行う

彼女たちの
鬼ふたちんぽ相手に
培った全てを
出しきりなさい



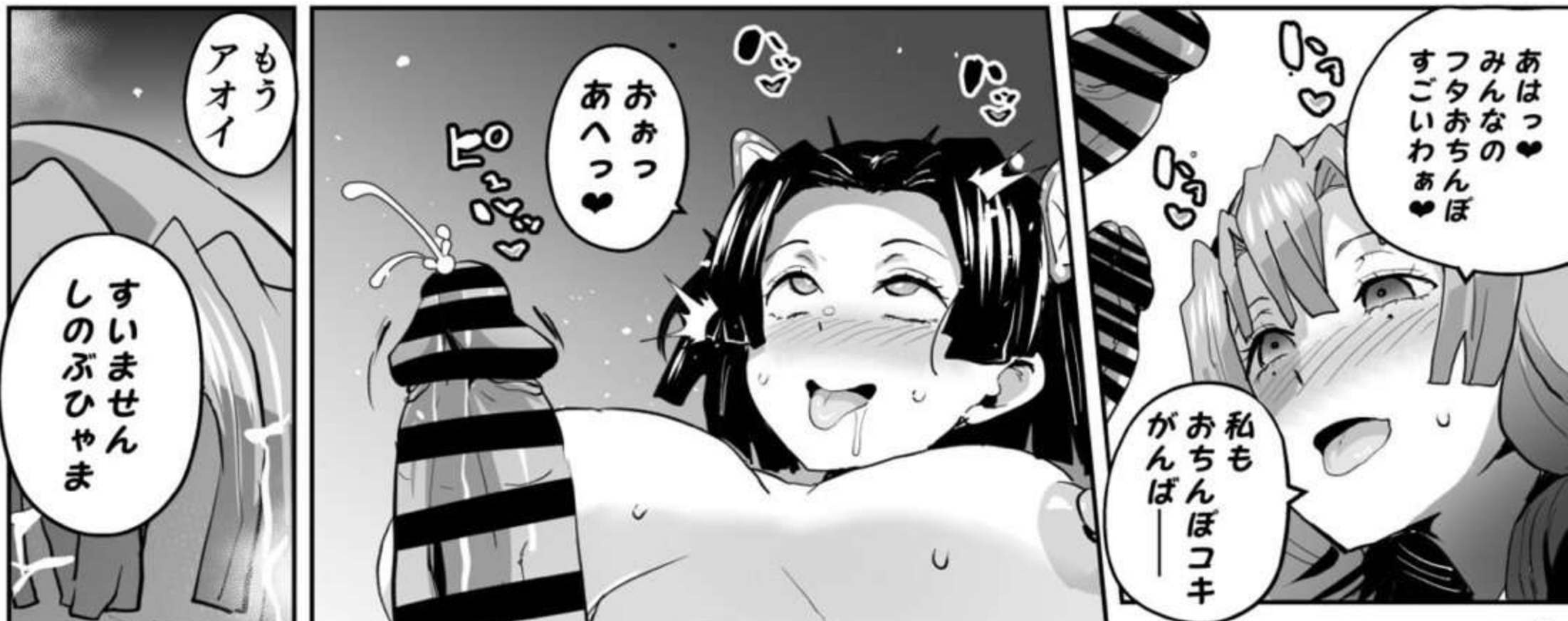
楽しみましょうね
甘露寺さん♡



及ばずながら
仕上げお手伝い
させて頂きますね♡

はぁ♡ちんぽ
もうハメても
いいですか？

盛りすぎ
だからバカ



おおっ
あへっ♡

あはっ♡
みんなの
つたおちんぽ
すごいわぁ♡

私も
おちんぽコキ
がんばー



すいません
しのぶひゃま

もう
アオイ



恋柱様のとろとろ
おまんこに
ハメられると
思ったらちんぽ汁
でひゃいまひら♡



きゃっ!!





私は気に入った
牝を堕とす際には
牝自身に選択をさせる
ようにしている

選べ
甘露寺蜜璃

その刀を取り
鬼殺隊当主と
偽り語った鬼を
斬るか……

それとも
その刻まれた
鬼淫紋を
完成させ――

お前が愛おしそうに
舐めるそれに
忠誠を誓う
鬼願教の牝柱に
なるかを

へっ♡
きまつれ

そんなの
きまつれるわ
わらひは屈つひない
こんな卑怯でエッチな
鬼ちゃんほなんか！♡





さあ
これより計画を
最終段階へと
進める
つまり鬼殺隊
本拠の攻略

ふふ
鬼願教徒の証よく
似合っていますよ

鍵は鬼殺隊の
柱でもある
お前と
しのぶの二人だ

任せたぞ
我が鬼願教の
新たな牝柱
同志・蜜璃よ

はい♡牝柱
甘露寺蜜璃

愚かな鬼殺隊の
皆に真の幸せを
届けてみせます♪

全ては
愛する教祖様の
ために♡





か...ん
ろ...じ



おっでるでる♡
鬼精子でるわっ
あまねひやま
でますよあ

伊黒さんも
そこで見れてね♡
私の裏切り
牝ちゃんほ射精っ♡



鬼殺隊の牝は
みんな鬼孕み汁れ
教祖様のブタに
なるのよ♡

んふっ♡
ちゃんほ汁
れ射精っ♡

んふっ♡
んふっ♡





お前もだ

んっ♡

嬉しい♡

御心のままに
教祖様……♡



添え物蜜璃の
思い人だった
やつか……

はいもう一人の
添え物も教祖様に
楽しんで
いただけるかと♪



あれから二か月
この本部は
完全に掌握

各地の鬼殺隊員も
順調に洗脳が
進んでおります

柱のほうは
どうだ？

本日の鬼成の儀を
盛り上げる添え物
として残っている
最後の一人だけ

こちらも
儀式のあとには



それでしのぶ
鬼殺隊の現状は？

♡



鬼成の儀♡



なるほど今日の
儀式・宴も
楽しくなりそうだ

吸え

ちゅる

♡

人の身では
歩めぬ永遠を
教祖様と共に
生きる♡

未来永劫に
全てを捧げる
生まれ変わり
儀式♡

さあ教祖様の
側へ…

同志
甘露寺蜜璃

はい♡

栗花落カナヲ

カナヲ
甘露寺さん!!

やめろ
戻れ甘露寺

貴様…っ

ちゃんと
見てね
伊黒さん

炭治郎
もね♡


ほう
我が術の支配下で
動こうとするか…
たいしたものだ

愛してます♡

喜びたまえ
私の蜜璃と
カナヲ…

二人の新たな日に
立ち会える事を

大好き♡

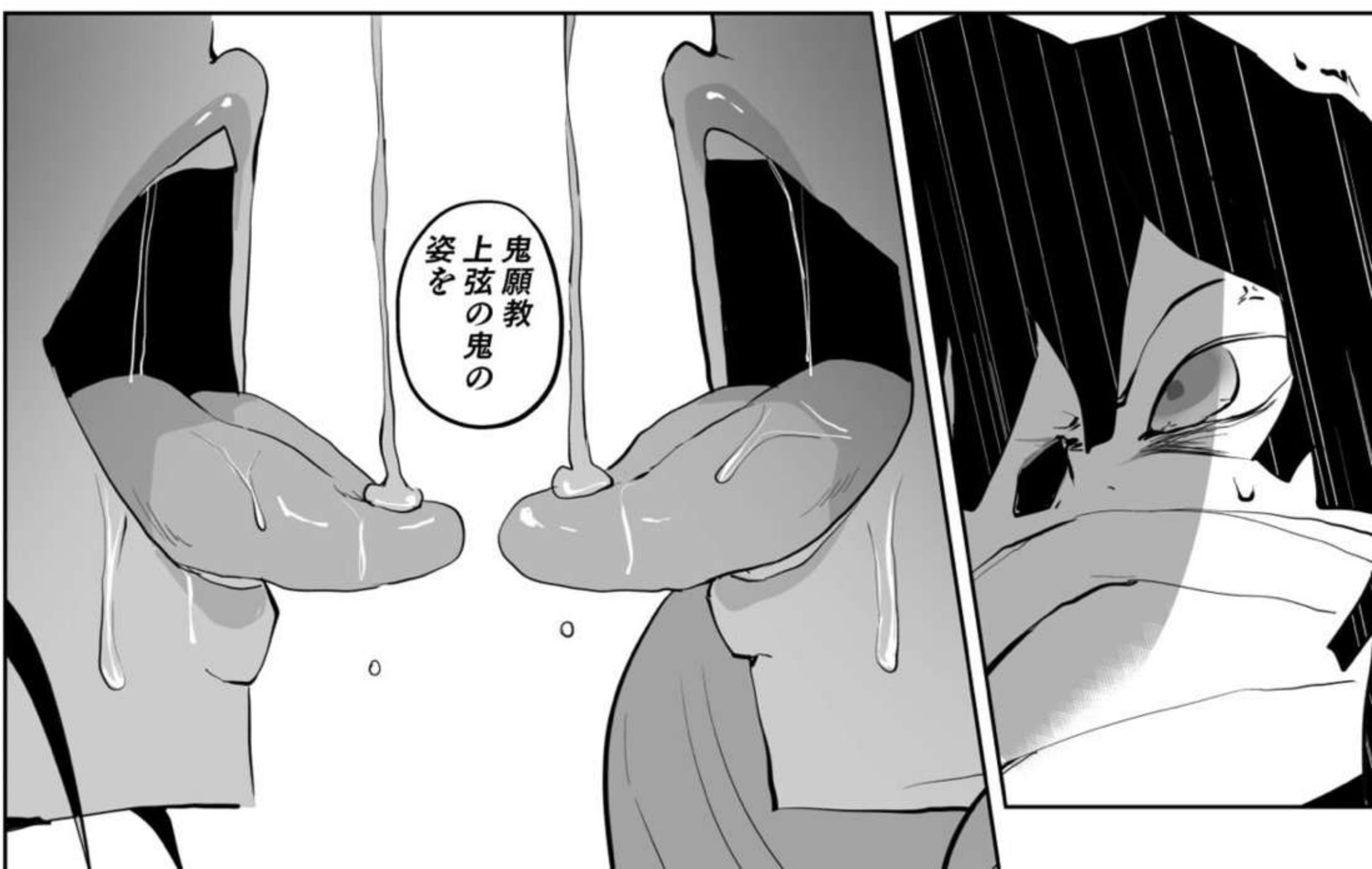


あの男にしか
なしえなかった
奇跡をなす薬…

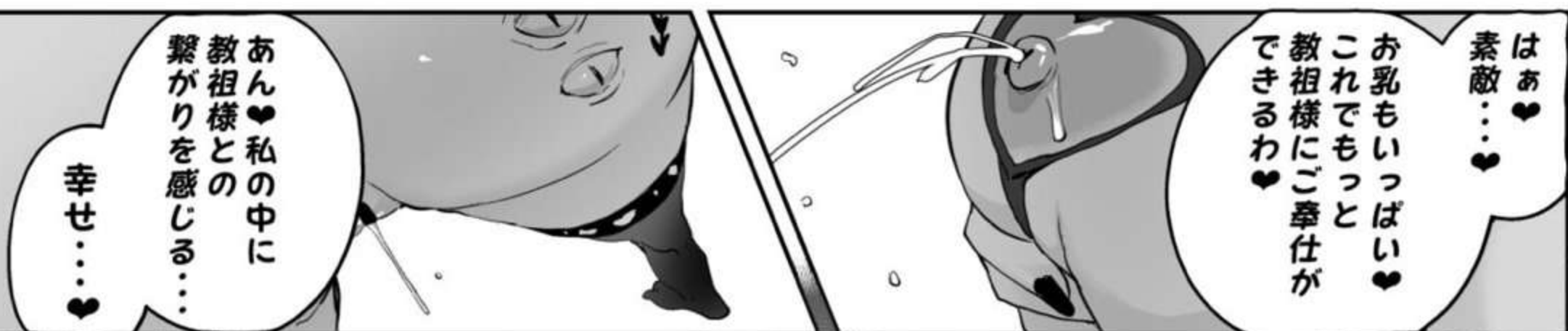
私の愛しい牝柱達
さあ見せてくれ…



私のためだけの姿



鬼願教
上弦の鬼の
姿を





クク…
この光景は
何度見ても
素晴らしい



さて目の前に
ドスケベ鬼が二匹

どっちのエロ穴から
使うべきかな…



カナヲ…

はへ♥私い♥
ドスケベ上弦の参の
ヌキヌキおまんこに
お恵みを♥



蜜璃…

私♥私から♥
生まれ変わった
鬼ちゃんぽコキ穴を
どうか♥



君たちは
どっちの穴からが
いいと思う？

うゝむ



ふっ

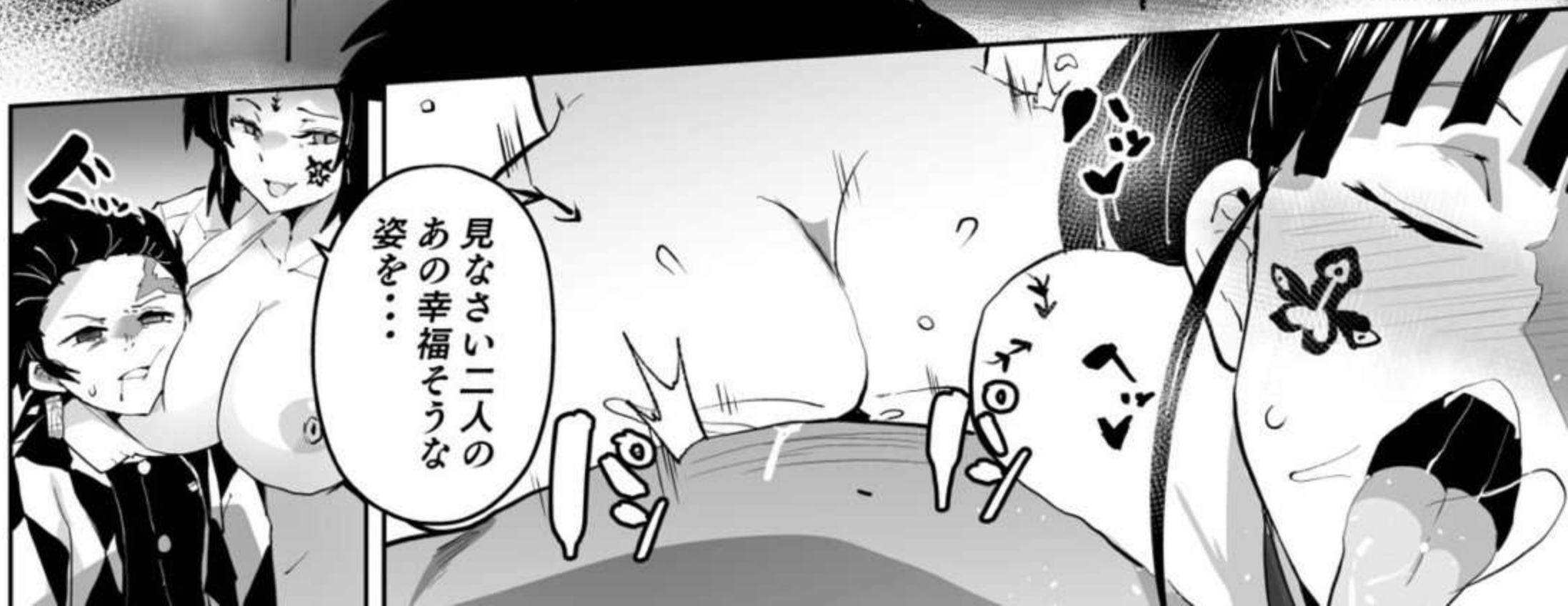
私は
怒ってるんですよ
炭治郎君

鬼になることの
素晴らしさを
理解しようとも
しなかつた
かつての私は

そして鬼を否定し
続けている
あなた達こそです



見なさい二人の
あの幸福そうな
姿を...





アオイも♡

今日の
特製ミルク茶を
お持ち致しました♡

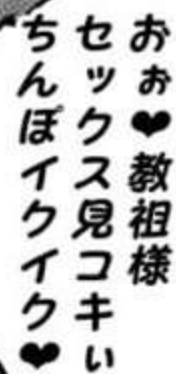
おお
気が利くな
アオイよ

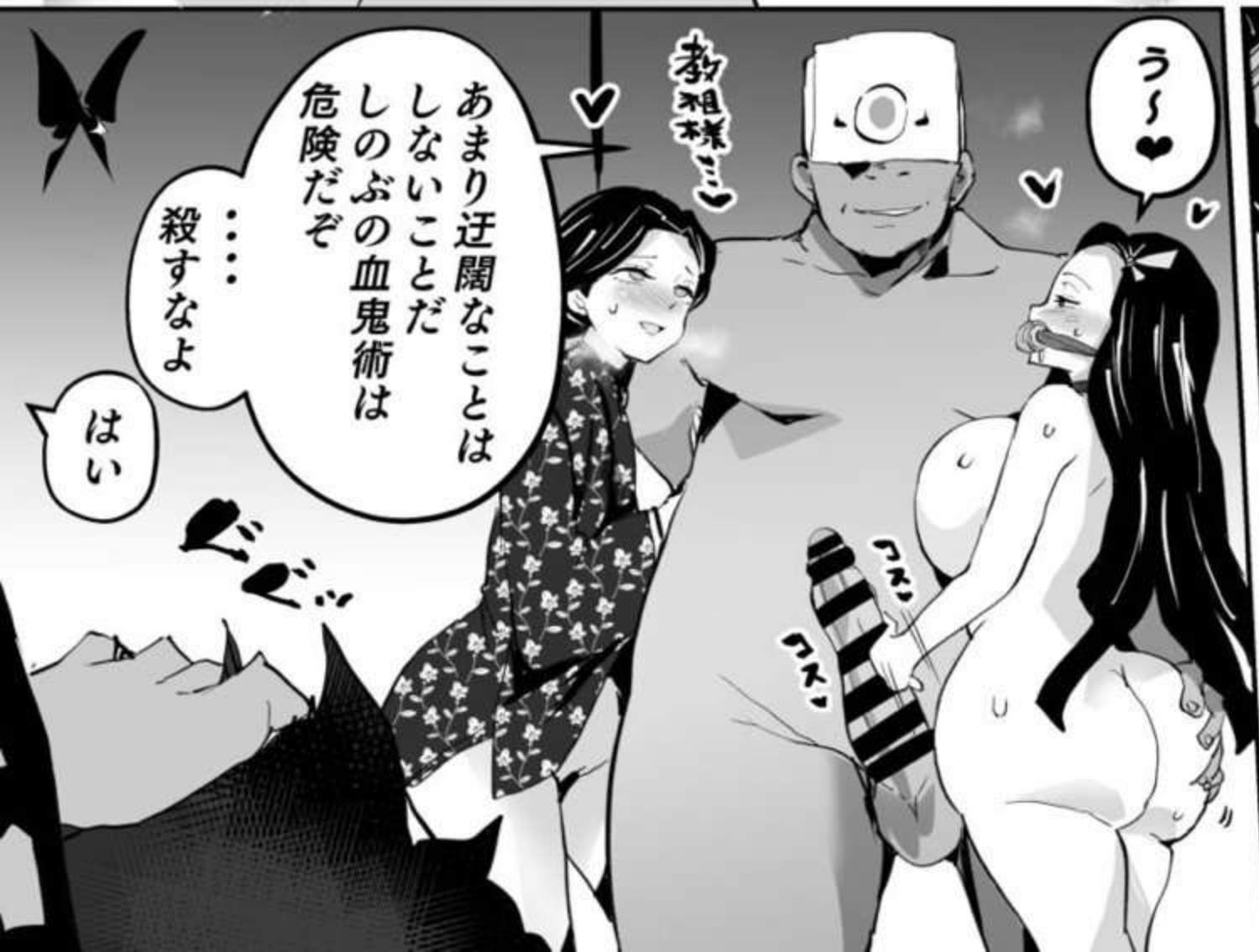
悪いがこのスケベ鬼の
相手が忙しくてな

アオイお前の口で
飲ませてくれるか

お前は
こつちを飲め

おまかへ
くらはい♡







わかるな

ムー

桐豆子待てだ
まずはいつものだ



もちろんあれは
桐豆子だけの
おかげではないがね

チュッ



珠世お前には
感謝しているぞ

とんでも
ございません
全て教祖様
あつてのこと



私の全てが教祖様の
ものになっら...♡
ふもっ♡んっ♡

ぐちゃぐちゃ♡



はへっ♡
鬼淫紋を
刻んで頂き...

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡



あの至高の夜が
あったからこそ

精を力とする
教祖様の鬼としての
特異性♡素晴らしさに
きづけたのですから♡



すなわひ♡



そして閃いた♡
欄豆子さんの血の研究を
鬼から人へ
戻すほうではなく

教祖様の体液と
合わせ新しい鬼を
作る方へ使えばと...

はあ...♡
はあ...♡
ぐちゃぐちゃ♡



薬を使っていないにも
かわらず欄豆子の
体は淫鬼のそれに
変わり始めている

これは
興味深いことだ
炭治郎君

鬼としての
特異性か

それとも
昼夜とわず
私と交わり
続けている
せいか...

なんだ
ケツにも
欲しいか
スケベが

いやこれはきっと
元々君の妹に
ドスケベ豚の
才能があったから
だろうなw



流石に意識が
朦朧として
きているようだね

しのぶの毒を
うけたのだ
もったほうか

竈門炭治郎
では最後に
一つ約束をしよう

禰豆子も皆私が
責任を持って
幸せにしてやる

安心して
眠るといい

しのぶ
あとは
任せるぞ

はい♪
教祖様

次に目覚めるときは
あなたは私達のために
働く兵となっている
でしょう

すでに意識のない
伊黒さんや他の柱も
鬼殺隊の全てが

ふふ♡

淫鬼のための世界
一緒に作れるのを
楽しみにしてますよ♡

では
また♡

んっ♡
教祖しやま汁♡

♡

愛して
あります♡



鬼願教と我ら
淫鬼のため
これから頼むぞ
愛しき牝鬼達よ

はい♡私達の全ては
教祖様の御心とともに
お任せください
ご主人様♡

おわり♡

キメツ世界フォーリングダウン

日高久志

(眩しい……ここは……どこなんだ……?)

机と椅子以外、何も無い殺風景な部屋。
竈門炭治郎は目を覚ましたとき、椅子に縛り付けられていた。

「手荒な真似をしてごめんなさい。
もうあまり時間がないの」

部屋に突然、3つの人影が現れる。
スーツ姿でサングラスをした3人に炭治郎は見覚えがあった。

「貴方達は……宇髄先生の……」

3人はまきを、須磨、雛鶴。
キメツ学園の食堂で働いていたが、宇髄先生がクビになった時に先生として赴任した。

「ええ。貴方を信用してお話するわ。
どうか協力してほしいの。天元が期待を寄せていた貴方なら……きっと……」

炭治郎は気になった。

3人はいつも付けていた黒い首輪をしていない。
惚けた顔で生尻を振りながら、媚薬入りの料理を味見して涎を垂れ流していた彼女達と同一人物とは思えない。

「分かっているとは思うけれど、
鬼願幸福教の教祖……
キメツ学園の校長、鬼願の力は洗脳よ。
今や学園の全ての先生生徒が彼の支配下にある。

貴方や私達も同様にね。
もう逃れられないと思ったでしょ？
でも違うの。こうして元に戻ることができた」

まきをは真剣な顔で語りかける。

「私達は天元のおかげで自分を取り戻し、今はスパイをしている。
キメツ学園を調査し、皆を取り戻すためにね。

洗脳は解除できる。
たとえ鬼願幸福教十三柱に堕ちた貴方の恋人であっても」

「カナヲを……いやそんなこと
カナヲ様が許さない……」

炭治郎は頭を抱えた。
“盗柱(とりばしら)”栗花落カナヲに施された寝取られ射精マソ奴隷の洗脳はそれほど根深いものなのだ。

「しっかりして、炭治郎くん。鬼願校長は本気で世界征服を企んでいるわ。

十三柱がマクを作成して、
動画配信サイトに垂れ流すそうよ。
鬼願の力が交じった洗脳動画を。

そんなことになったら、
十三柱の女性たちが恥を晒すだけじゃない。
全世界を敵に回すわ」

「あ、あれを……!?!」

炭治郎は目を見開き、驚愕した。
十三柱の学園での様子を撮影しているのは、炭治郎だったからだ。
そのあまりに酷い内容も、レンズ越しに脳にこびりついている。

「公開なんてしたら……
禰豆子達は……!」

炭治郎はガクガクと震え出した。

「分かって貰えたかしら。
だから貴方にやってほしい事があるの」

「あれが……あれが……」

炭治郎は思い返す。
自分の前で繰り広げられた、最悪の授業の光景を……

「ふっ、乳柱（ちちばしら）、甘露寺蜜璃先生のパイズリレススッ」

「はあ、いっ、オッパイに

自信があるみんなっ」

今日は教祖様直伝のパイズリご奉仕を教えちゃうからね、真剣に覚えて、教祖様に喜んでもらおうねっ」

明るく朗らかに教室に入ってきた甘露寺先生は、身体がラインがピチッと出るパンツースーツ姿だ。しかも雰囲気作りのなか、伊達メガネをチャキッと上げてインテリっぽくみせている。

しかし大きくはだけた胸元からは、たわわなおっぱいが放り出されて、彼女が動いたたびに揺れる。

「ふっ、じゃあ♥皆、オッパイを出して、左右に揺すって！教祖様の目に止まるように・・・媚びを売りましょうっ」

豊満ボディの生徒達は躊躇することなく、胸を曝け出す。

生徒の中にはまきを、須磨、雛鶴の3人も、期待に胸を膨らませた表情で参加している。

あまね校長や琴葉さん、ピッチギヤルの梅ちゃんまでいて、多彩な顔ぶれだ。

そんな人達が皆一様に、右へ左へ乳を惜しげもなく振っている。

卑猥を通り越して、異常な光景だ。

「いいですねっ、下品な乳フリに私も興奮しちゃいますっ」

さあ、みんなっ！そのままオッパイを両手で持ち上げてえ」

寄せて、寄せてアピールしましよっ」

「「はいっ」」

元氣な返事と共に、皆が一様にオッパイを持ち上げる。

それぞれ個性的な乳首がぶつくりと膨らみ勃起していた。

「次は舌を出してみてっ」

パイズリで大事なものは、オチンポ様を気持ちよくする為のオッパイだけじゃないわ。

レロレロして舐めしゃぶるのも重要よ、ほらあ、

こんな風に恥ずかしがらずにいっ」

甘露寺先生が舌をレロレロと動かしながら唇を舐める。

満面の笑みと合わさって、恐ろしい淫靡さだ。

明るく皆の憧れの的だった素敵な先生が風俗嬢に堕ちたような背徳感すら感じる。

氷のように冷徹だったあまね校長や、優しく慈愛に満ちた抱擁力がある琴葉さんまで、酷い顔で舌を動かしていた。

「すっ、いっ、教えることないくらいに

上手、これだったら、すぐに本番で使って貰えますね。

実践しましよっ、皆で・・・教祖様の元へ行きましよっ！課外授業ですっ」

涎を振り飛ばしながら甘露寺先生は握りこぶしを作る。動いたたびにオッパイがブルンブルンと揺れていた。

甘露寺先生と生徒達はオッパイを放り出したまま、廊下を練り歩く。

誰も咎める者はこの学園にはいない。

異常な行進にも、羨ましそうな視線をネットリと向けるだけだ。

廊下の先に、嫁柱たる妹、禰豆子を背面立バックでハメながら神輿に乗る教祖が見えた。

「教祖様っ」

乳柱、甘露寺蜜璃がパイズリご奉仕を皆様に伝授しようと思ったのですが、やはり生で見えて頂くのが一番かと思うです、

だ、か、ら・・・私のオッパイでオチンポ様をしごかせて頂けませんか？」

胸を寄せつつ、おねだりをする甘露寺先生に、

禰豆子は「ふっ、ふっ」と威嚇する。

教祖のチンポケースと化している禰豆子としては、その邪魔をされたくないのだ。

だが教祖は高笑いを浮かべると、禰豆子を乱暴に叩き落とした。

「ぐふふ、いいだろう。存分に奉仕しろ。だが蜜璃だけではない。お前の生徒達も一緒にだ。乳蓮華を咲かせるがよいっ！」

「「はいっ♪教祖様っ♪」」

誰も彼もが我先にと争って教祖の股ぐらに飛びつく。色とりどりのオッパイが、所狭しと並び、教祖のイチモツに押し付けられた。

「わ、私が教祖様の御前にっ！」

「それは私こそがっ！乳だけのメス牛には負けませんからっ！ー！」

「おばさん達より、張りのある若い私の方がいいと思うんだけど♪」

それぞれが醜く争いながらも、乳を抑えつけるのは止めない。のしり合いは教祖の関心を引く為のエッセンスに過ぎない。

蜜璃は知っている。嬉しそうに目を細める教祖様が次に何というかを。

カメラを向けている炭治郎も知っている。学園の全てはこの男のものなのだから。

「そうだ、貪れ。私のザーメンが一番に欲しいのは誰だ？」

仲良くさせるつもりなんてない。ただ自分の為に醜く争う彼女達を、高みの見物をしたいのだ。そういうゲスなのだ。

「だったらっ！遠慮はしませんっ！ー！ほらっ！ー！あっち行ってっ！ー！」

蜜璃が教祖の指示と同時に、周りの女性達を怪力で押しのけ始めた。誰も彼女の腕力には勝てない。

だけど吹き飛ばされても、しつこく肉薄する。放り出したオッパイを振りながら。

「私が頂くのっ♪
教祖様の濃厚絶品ザーメンをっ♪
何よりも美味しくて・・・どんなものより貴重なザーメンっ♪」

形振り構わない蜜璃は、もう教師とは思えなかった。勿論、ソンビみたいに群がる女性達も。

「おおっ！素晴らしい乳乱舞！これはこれでたまらないっ！！いいでしょうっ！！
ぶちまけてあげましょうっ！ー！」

蜜璃はレロレロと鈴口を舐めながら、大きく口を開けた。

どびゅるううう・・・どぶどぶう・・・っ！！

凄まじい量の精液が蜜璃の唇に注がれた。全てを受け止めきれずに溢れてしまっているが、蜜璃は器用に乳で迎える。

「教祖様の最高のザーメンを・・・一滴も逃さずに味わう為にこの牝乳はあるんですから♪
ああんっ♪ちゃんと舐め取らせて頂きますう♪」

オッパイを寄せ、上目遣いで自分についた精液を舌で掬う蜜璃。
そんな目を背けたくなる痴態を、生徒たちは尊敬の眼差しで見つめていた・・・

REC・2、尻柱（しりばしら）、胡蝶しのぶの牝媚びケツ振り講座～

「ふふっ♪では皆さん、教祖様にお見せするに値するケツ振りとはどういうものか・・・お分かりですか？」

傲慢のお尻をフリフリしながら、優雅にしのぶが生徒達に尋ねる。
白い尻たぶが幻想的に舞うのに見惚れる生徒までいる。

カメラを回す炭治郎も、しのぶが前を通るたびに息を呑んだ。

「そ、それはやっぱりしのぶ先生みたいなシミひとつないキレイなデカ尻を・・・」

恥ずかしげもなく大胆に曝け出すことだと思えますっ！」

十三柱の一人、〃物柱(ものばしら)〃真菰が目をキラキラさせて、しのぶにすり寄る。
ウヴウヴ・・・と大きなバイブが小さな股下に二つも蠢いていた。

「あら。真菰さんのお尻の形が歪んでしまうくらいに大きなケツ穴バイブも素敵ですよ。」

もっと自信を持っていと思います。
そこまでのバイブを咥え込めるのは、貴女くらいでしょうし。」

先輩として、後輩を勇気づける
その言葉は最もだ。
内容はともかく・・・でも答えではない。

「ただの生尻じゃ、もう教祖様は満足されないってことじゃないですか？」
やっぱり教祖様の大きな御手で、バチバチに叩いてもらって朱に染まった紅葉尻なんかいいと思いますっ！」

〃虐柱(いじめばしら)〃のアオイがマゾ全開の提案を、嬉しそうに語る。
教祖が叩きまくったお尻が並ぶ光景は、確かに壮観だろう。

「なるほど。新しい趣向を教祖様にプレゼンしようとするのは立派ですよ。」
でもそれはケツ振りではありません。

主題を間違えてはいけませんよ、アオイ」

マゾマゾした方向にすぐ奉仕をもっていこうとするアオイをしのぶは牽制した。
全て教祖様に喜んでもらう為とはいえ、特定の性癖に偏ってしまうのはつまらない。

(それに尻柱としての、私の立場がなくなってしまうから。)

しのぶは意地悪そうに笑うと、炭治郎の前に立った。

「どう思いますか？炭治郎くん。」

教祖様に捧げるケツ振りに必要なものとはなんだと思いますか？」

撮影係として、一言も喋ることが許されていない炭治郎は、質問されたことだけでも驚いた。
しどろもどろになって、つい真面目に答えてしまう。

「制服で・・・お尻を振るのもいいけど・・・それだけじゃ駄目なんじゃないかと・・・もっとその・・・別の・・・」

「いいですね！思いつきませんでしたよ。」
コスチュームがお尻を際立たせる・・・そういうことですな。」

炭治郎くん、お手柄ですっ！」

しのぶは満面の笑みを浮かべた。

「では実践しましょう。」

教祖様をお呼びして、私達のパフォーマンスを見て頂くのです。」

この授業は、しのぶがアイデアのヒントにする為の回だったのだ。

思いついたら、授業なんてどうでもいいという悪辣さだ。

呆気にとられる炭治郎は、言われるがまま外へと繰り出す。

校庭では、すでに教祖が設置された玉座に座っていた。

「な、なにが始まるんだ・・・？」

炭治郎がカメラを回していると、教祖の歓声がとぶ。

しのぶを先頭に、十三柱の面々が勢揃いでチアリーダーの格好で現れたのだ。

甘露寺先生なんかは、学生のチア衣装が小さすぎるのか、胸がはちきれそうになっている。

禰豆子や堕姫なんかの現役世代は可愛いが、校長に教頭、瑠火先生や珠世先生なんかはいかにも痛々しい。

だが全員が笑顔で整列していた。

ボンポンを腰にすえ、しのぶが教祖に媚を売る。

「教祖様♪私達、忠実な下僕である鬼願幸福教

十三柱のケツ振りダンスを、心ゆくまでお愉しみくださいませ♪」

一斉にクルリと翻った彼女達はそれぞれ多彩なお尻をフリフリ振った。個性的な生尻が、青と黄色を基調にしたチア衣装から見え隠れする。

凄まじい光景に炭治郎は声も出なかった。堕ちる前の彼女達からは想像も出来ない痴態だ。

恥ずかしすぎて、顔から火が出そうな醜態を、満面の笑みで一心不乱に尻を振る。

「ケツ魅せダンス、ワン、トゥ、スリー……！」

しのぶの号令と共に全員が膝につき、お尻を高く掲げた。もうお尻だけが並ぶような格好になり、変態度があがる。

「おおっ!!なんて無様なのだ!お前達っ!!」

教祖はご満悦だ。

股間のイチモツもムクムクと大きくなる。

反対に炭治郎は震えていた。

こんな悲惨な光景を映像で残しておくことに戦慄していたのだ。

「我ら、鬼願幸福教十三柱は教祖様が世界を統

べる為に、この身と心を全てお捧げしますっ♪ フレー、フレー、教祖様っ♪

世界は教祖様のその手の中につ♪」

しのぶがシュプレヒコールを上げつつ、お尻で教祖にすり寄る。

他の女性達も「フレー、フレー、教祖様っ♪」と声を合わせて教祖を囲んだ。

「そうだ!お前達の力でこの世界をも我が物にするのだ!!

ふはははっ!!実に心地良い。誰にも邪魔をさせんぞっ!!」

響き渡る教祖の高笑い。

恐ろしさで湧き上がる怒りに動揺する炭治郎と対象的に、しのぶはウツトリと目を細めるのだった。

REC・3、盗柱（とらばしら）、栗花落カナヲのマソ雄量産指南、

「私の言うことが聞けないって訳?炭治郎。

簡単でしょ?お前の寝取られマソ仲間を増やしてやろうって、カナヲが言ってるんだから。

ありがたく思いなさい」

「うっっ……」

神埼アオイに足蹴にされながら、炭治郎は命令通りカメラを回していた。

足で小突くたびにアオイは加虐心を愉しむように笑う。

後ろにいるカナヲやしのぶも同様だ。

「そうです。炭治郎くん。

仲間が増えた方が華やかになりますよ。教祖様の為のマソ雄は何人いても、問題ありませんから。

死ぬ気で働いて貢いでくれればいいんです♪」

“舐柱（なめばしら）” 胡蝶カナエ先生が妖艶な笑みを浮かべる。

誰よりも優しいと評判だった先生が、生徒を貶めようと企むのは、やはり最悪な気分になる。

蝶の髪飾りをつけた4人に責め立てられ、炭治郎の心は折れそうになる。

だけど命令をきく訳にはいかない。

これ以上、被害者を増やすのはやめて欲しい。

しかも恋人だったカナヲの悪行なんて見たくもない。

「病気で入院していた恋雪さんが帰ってくる時に、粕治くんがいないと締まらないでしょ?

せっかくなまだ教祖様の虜になってない女の子がいるんだから。

最高の舞台を用意しなきゃもったいないわ。わかってんの?」

アオイが強く炭治郎を蹴る。
むせ返りながらも、炭治郎は「無理だ・・・」
と固辞した。

恋人が寝取られる悔しさは誰よりも知っている。
わざわざ教祖を喜ばせる為に友人を犠牲に
なんてしたくない。

「じゃあ炭治郎。」

もう貴方の粗チンを扱いてあげないわ。
一人でイケない苦しさ悶えるといい」

「え・・・？」

カナヲが冷たい視線で炭治郎を見下ろしていた。
そしてスッと靴を脱ぐと、冷たい素足を炭治郎
のズボンに滑り込ませる。

「ひゃあっ・・・んっ・・・くう・・・」

「私が虐めてあげないとイケない貴方が命令に
背くとうなるか・・・
思い知るといいわ」

カナヲはそう言い放つと、足を抜き踵を返した。
アオイ達も部屋を出ていく。

炭治郎は助かった。友達を売らずにすんだ。

嬉し涙を浮かべて嗚咽する自分をずっとカメラ
で記録していた。

恋雪さんが帰ってくるのは3日後だ。

それまで・・・それまでの我慢だと自分に言い
聞かせた。

その夜だった。

家に帰った炭治郎に狛治から電話が
掛かってきた。

曰く、善逸がしきりに学校に来るように迫って
きているとのことだった。

「どういうことだ？」

男はお呼びじゃないんだろ？

だから退学にさせられたのに。
まだ通ってるお前は何か知っているのか？」

“盗柱（とりばしら）” 栗花落カナヲの呪縛に
囚われた寝取られマソ雄以外の男子は強制退学
させられている。

まだ在席しているのは、炭治郎と同じ彼女に忠
誠を誓った奴隷だけだ。

善逸もその一人で、命令されるがまま狛治を陥
れようとしているみたいだ。

（恋雪さんが退院すること・・・知らされてな
いんだ・・・）

そうでないと、学園で対面した時のインパクト
が薄くなる。

炭治郎は狛治を守るために、「何も知らない」
としか言えなかった。

だがその日から地獄の苦しみだった。

勃起しそうになるのにイケない・・・

まるで呪いにかかったみたいだ・・・

炭治郎はカメラを回していた。自慰する自分を
録らされていた。それも命令だ。

そして無様にイケずに唸り声をあげていた。

3日目。

炭治郎は我慢できずに狛治を学園に呼び出して
いた。

「どうしたっていうんだよ？」と訝しむ彼に
「行けばわかるから・・・」と誤魔化すことし
か出来ない。

校門をすぎたところで、狛治が叫び声をあげた。

「うわあああっ・・・！！」

教祖に背面座位で貫かれて、恍惚の表情を浮か
べる恋雪に狛治は半狂乱で走り寄る。

そんな彼をしのぶとカナヲが引き倒した。

「ああ・・・」

炭治郎には分かっていた。

こうなることは誰よりも・・・

「よくできました」炭治郎。

今日はイカせてあげるから。期待していて、
ちゃんと命令を聞けるマソ雄には褒美をあげ
る・・・狛治くんも仕込むけど、先輩として
ちゃんと教えてあげてね」

股間をさすりながら、カナヲが微笑む。

「退学にしちゃったマゾ雄どもだけど、労働力が必要だからこうやって呼び戻そうと思ってるの。これから協力してもらうわ。」

カナヲに期待されて、炭治郎はスボンの中でピンピンに勃起していた。

「じゃ、じゃあ・・・お嫁さんがいる・・・宇髄先生を！！」

炭治郎の逸る媚びと、狛治の断末魔が重なる。

カナヲに導かれて炭治郎はオスイキしながら、震えていた。

——現在——

（そ、そうだ・・・宇髄先生は・・・マゾ雄になって・・・
でも3人の奥さんの洗脳が解けたなら・・・あれ・・・？おかしいな・・・

だけど、あの映像を世界中に流させる訳には
いけないのは確かだ！！）

「セット出来たわ。炭治郎くん。
すぐに始めましょう」

炭治郎は真剣に目の前のカメラを見つめていた。
これから自分の映像が世界に向けて、リアルタイム動画配信される。学園の皆を助けるために、もう後戻りは出来ない。

「全世界の皆さん。俺は・・・竈門炭治郎とい
います。俺のいるキメツ学園は・・・鬼願幸福
教が支配されてしまいました。」

今そこにいる生徒は皆、教祖の奴隷です。
教祖の為なら・・・どんな非道なことだって厭
わない・・・

そう洗脳されてしまったんです！！
でも・・・助けることは出来ます！！

洗脳を解くことが出来るんです！！
それには皆さんの力が必要です！！
この映像を拡散して、もっと同志を増やしてく
ださい。

そうでないと・・・
鬼願幸福教は世界中の皆さんですら、洗脳して
しまおうと企んでいるんです！！
そんなことになったら取り返しがつかない！！
だから皆さんっ！！
俺の言うことを疑う前に行動してください！！
手遅れになる前にっ！！

台本なんてなくても、絞り出てきた魂の叫びだ
った。

「良かったわ、炭治郎くん。
ふふっ♪アップしたばかりなのに、再生回数
が凄いことになっているわ♪」

3人が怪しい笑顔でほくそ笑む。

「そ、そんなすぐに・・・？」

「ええ。貴方が撮った映像」が配信されてか
ら10時間。

それがすでに世界中に拡散されているからね。
その真相だろう・・・貴方の訴えは注目に値す
ると思うわ♪」

「え・・・」

炭治郎は開いた口が塞がらなかった。
まきを達3人はサングラスを取り、信者の証で
ある首輪を取り出して首に巻いた。

「俺を騙して・・・」

「嘘っぱい演技じゃ、再生数は伸びないもの♪
迫真の訴えだったわ。炭治郎くん。
たとえ貴方が撮ったパイスイ授業やチアケツに、
マゾ雄堕としての動画なんか差し止めになつて
も、こっちの動画は拡散されるでしょ。
この・・・洗脳ノイズ入りの動画がね♪」

炭治郎はまた好き勝手に弄ばれていたのだ。
炭治郎が止めたかった動画はすでに拡散してい

て、その反論動画も悪辣な罵とされていた。

「これで全世界に洗脳が行き渡り、教祖様の教えがまた拡がるわ♪
はぁんっ♪素敵よね。世界が教祖様に平伏すのよ♪」

いつの間にか部屋に、人影が増えている。
カナヲ達十三柱に加えて、教祖も輿に乗って現れた。

「洗脳が解けるなんて・・・
嘘だったんだ・・・」

絶望が色濃く炭治郎に影を落とす。

「違うわ。今のままじゃいすれ洗脳は解けてしまふ。それは本当よ♪」

カナヲが炭治郎に囁きかけた。
その指に、クルクルと使用済みコンドームを巻きつけて遊んでいる。
タブタブと精液が入ったコンドームは卑猥だ。

そして炭治郎の手にカメラを渡す。

「だから今から鬼成の儀を始めるわ♪」

「お・・・に・・・!?!」

炭治郎は嫌な予感しかしない。
恐ろしいことがまた始まってしまふ。

「ええ。未来永劫、教祖様の牝奴隷でいられるように・・・
私達は人間を辞めて、鬼になることにしたの♪
教祖様の濃厚精液で珠世先生が作ったこの薬・・・これを口にすれば、鬼となり二度と元に戻ることはないわ♪」

「や、やめてくれっ!!!!カナヲ!!!!
そんなことしたら・・・」

「カメラを回して♪炭治郎」

炭治郎の声など届く訳がない。
十三柱の全員が、同じ使用済みコンドームを持っていた。
タブタブと白濁液が入っているのが分かる。

「「「全ては教祖様のためにっ♪」」」

口を開けて上を向き、取りこぼさないように舌を出す。
ドロツとした精液が・・・怪しく紫色の光を放つ精液を全員が美味しそうに呑み込んでいく。

「あ・・・あぁっ・・・」

すぐに女性達の身体に変化が現れた。
ハートマークが連なったような紋様が浮かび、子宮の辺りにも大きな淫紋が出ていた。
牙が生え、瞳も猫の瞳のように変わる。

ひと目みて分かる。
本当に取り返しがつかなくなってしまったのだと・・・

「俺はまた・・・何も・・・」

崩れ落ちる炭治郎を満足げに見ながら、教祖は声を上げた。

「私専用の鬼牝となったお前たち!!
素晴らしい美しいその身体。見惚れるぞ!!
ふはははっ!!これからどうしたい?言ってみろっ!!」

禍々しいオーラを纏い、化け物になったカナヲ達は教祖の前に集結した。
弱々しく手を伸ばした炭治郎に一瞥すらしないままに。

「私達をこんな素晴らしい姿に変えてくれた教祖様のオチンポ汁♪
おかわりしたいですっ♪心ゆくまでこのエロポディに注ぎ込んでくださいっ♪」

カナヲが妖艶に身体をくねらせる。

「炭治郎が持っているカメラで生中継してしまっから♪
全世界に教祖様に従い生きる崇高さをアピール出来ると思つと、喜びが止まりません♪
教祖様、お願いします。雄々しい教祖様の男らしさを全世界に見せつけてあげてくださいっ♪」

しのぶが媚びて、炭治郎は自分が恐ろしくなった。もうカメラを構えていたのだ。

彼女たちの痴態を余すところなく伝えるように。

(そうか・・・俺ももう・・・引き返せないんだ・・・)

狂宴は続く。

誰も邪魔するものはいない。

世界を支配する洗脳動画を垂れ流しながら、炭治郎は何日かぶりのマゾイキを期待している自分が恨めしい。

「では私の為に大きな働きをしてくれた牝蝶達よ。尻に乳に、淫靡に振りながら奉仕するがよいっ！その鬼になった身体でなっ!!」

邪悪で期待に満ちた笑みを浮かべ、しのぶ、カナヲ、カナエ、アオイの4人がそれぞれ並び立つ。

「我ら牝鬼の淫技、ご堪能くださいませ♪まずは“尻柱”であるこの胡蝶しのぶが、教祖様の目を愉しませてみせます♪」

「おおっ！これは・・・！」

しのぶが扇子を振ると、無数の黒い蝶が舞って視界を遮った。

蝶の嵐の中に一際目立つ、白磁のようなきれいなお尻。

な。

「目隠しして、美尻を目立たせるかっ!!やるな！しのぶっ!!」

炭治郎も感心した。

見えにくい視界の中で揺れるお尻の妖艶さは凄まじい。

教祖の周りに黒い蝶が群がっていく。その中からせり上がってくる可愛い乳房達。

カナヲとアオイが自分の美乳を教祖の掌に当ててきたのだ。

「ぐふふっ！よい揉み心地ではないかっ！私と同じ鬼となったことで、肌にもよく馴染む。自らを捨ててまで尽くす乳奉仕。よいぞ！よいぞっ!!」

ムニムニ♪と教祖が揉みしだく。

「あうんっ♪教祖様の指さばきい・・・♪声が我慢できないっ♪」

「やはり誰よりもお上手でえ・・・ああっ♪胸を揉んで頂いてるだけなのに・・・メスイキしちゃいそうお♪」

アオイとカナヲが悶えるなか、教祖の顔の正面に黒い蝶で覆われた顔が、口元だけを顕にした。長い舌が教祖の唇に触れる。

「くくっ!!“舐柱”カナエの長舌を味あわせてくれるか!」

「はあいっ♪れろおっ♪んっ・・・ちゅうちゅちゅっ・・・♪舌だけお化けになっちゃっても教祖様を喜ばせますっ♪」

「ふふっ!!最高の趣向だな!!お次はなんだ・・・?」

しのぶはしゃなりしゃなりと歩きながら、お尻を教祖に魅せつける。目で舌で、触って愉しませる。

そうなると寂しくなるのは、ギンギンにそそり勃ったイチモツだ。

袴から飛び出して、元気に暴れまわっている。炭治郎もカメラをそこに合わせて、誰が来るのかソワソワしていた。

甘露寺先生なのか・・・?彌豆子なのか・・・?

教祖も十三柱の内、誰が来るか・・・心待ちにしている。

「失礼致しますっ♪教祖様っ♪」

黒い蝶の合間に顔を出し、教祖のイチモツにしゃぶりついたのは意外な人物だった。

「くくっ!!“舐柱”カナエの長舌を味あわせてくれるか!」

「はあいっ♪れろおっ♪んっ・・・ちゅうちゅちゅっ・・・♪舌だけお化けになっちゃっても教祖様を喜ばせますっ♪」

「ふふっ!!最高の趣向だな!!お次はなんだ・・・?」

しのぶはしゃなりしゃなりと歩きながら、お尻を教祖に魅せつける。目で舌で、触って愉しませる。

そうなると寂しくなるのは、ギンギンにそそり勃ったイチモツだ。

袴から飛び出して、元気に暴れまわっている。炭治郎もカメラをそこに合わせて、誰が来るのかソワソワしていた。

甘露寺先生なのか・・・?彌豆子なのか・・・?

教祖も十三柱の内、誰が来るか・・・心待ちにしている。

「失礼致しますっ♪教祖様っ♪」

黒い蝶の合間に顔を出し、教祖のイチモツにしゃぶりついたのは意外な人物だった。

「くくっ!!“舐柱”カナエの長舌を味あわせてくれるか!」

竈門葵枝。

炭治郎と禰豆子の母親だ。

目を爛々と輝かせ、一生懸命に貪りついている。あまりの醜さに目を背けなくなるほどの必死さだ。

「まさかの牝豚だなっ!!」

子供の前でそんなに発情して恥ずかしくないのか!!」

「うぼお・・・ぶふう・・・んむう・・・」

教祖様のオチンポ様にご奉仕出来る名誉と比べたら、そんなことどうでもありませんわっ」

鈴口を舌先で転がしながら、葵枝が媚びる。

その額にも鬼の証であるハート連鎖の紋様が浮かんでいた。

彼女も母親であることより、教祖の下僕であることを選んだのだ。

「そうですっ♪むしろ見せつけてあげます♪」

教祖様にご奉仕している母の姿をっ」

「マゾ雄しかいないから、逆にご褒美かも知れませんかっ♪」

ふふっ♪玉舐めさせて頂きますっ♪」

「鞭柱（むちばしら）」「煉獄瑠火と」祈柱（いのりばしら）琴葉が両側から舐め奉仕に参加する。

母3人が年甲斐もなく股下に吸い付いた。

「母親達のトリプルフェラとはなっ!」

これは予想外だが・・・心地よいぞっ!」

「うじゅううるうう・・・んむう♪」

もっと・・・もっと気持ちよくなってくださいませえ・・・」

「玉袋も熱くって凄い匂い♪」

お舐めさせて頂いているだけで、マン汁垂れ流してしましますっ♪」

「ちゅう・・・ちゅう♪我ら母親達に、教祖様のオチンポミルクをお恵みください♪」

精液バックでもっと若返って、教祖様に喜んでもらうのお♪」

がつつく3人に、さすがに炭治郎は啞然としていた。

すると視界内にまたしのぶの美尻が入り込む。

炭治郎もわかり始めていた。

彼女の登場は合図なのだ。次のご奉仕を見てもらう為の。

教祖の前の黒い蝶達が飛び去り、視界は開けていく。

するとヴウヴウ・・・とパイプの音と「んくう・・・」と女性たちのくぐもった声が鳴り響いた。

目の前には、教団服に身を包んだ女性達が、エロ踞の姿勢で並んでいる。

その股間には大きなパイプが突っ込まれていた。

「教祖様のおメガネに叶うよう、特製のデカチンポパイプです♪」

もちろん私の牝穴で型をとり、教祖様のサイズを参考に作ってみましたっ♪」

「そしてそのパイプには、私の開発した感度をあげる媚薬が塗ってありますっ♪」

ついこの間まで処女だった牝豚もご覧のとおりにつっ♪」

「物柱（ものばしら）」「真菰と」薬柱（やくばしら）」「珠世が嬉しそうにお披露目している。

珠世が放り出した乳を乱暴に揉む女は、狛治の彼女だった恋雪だ。

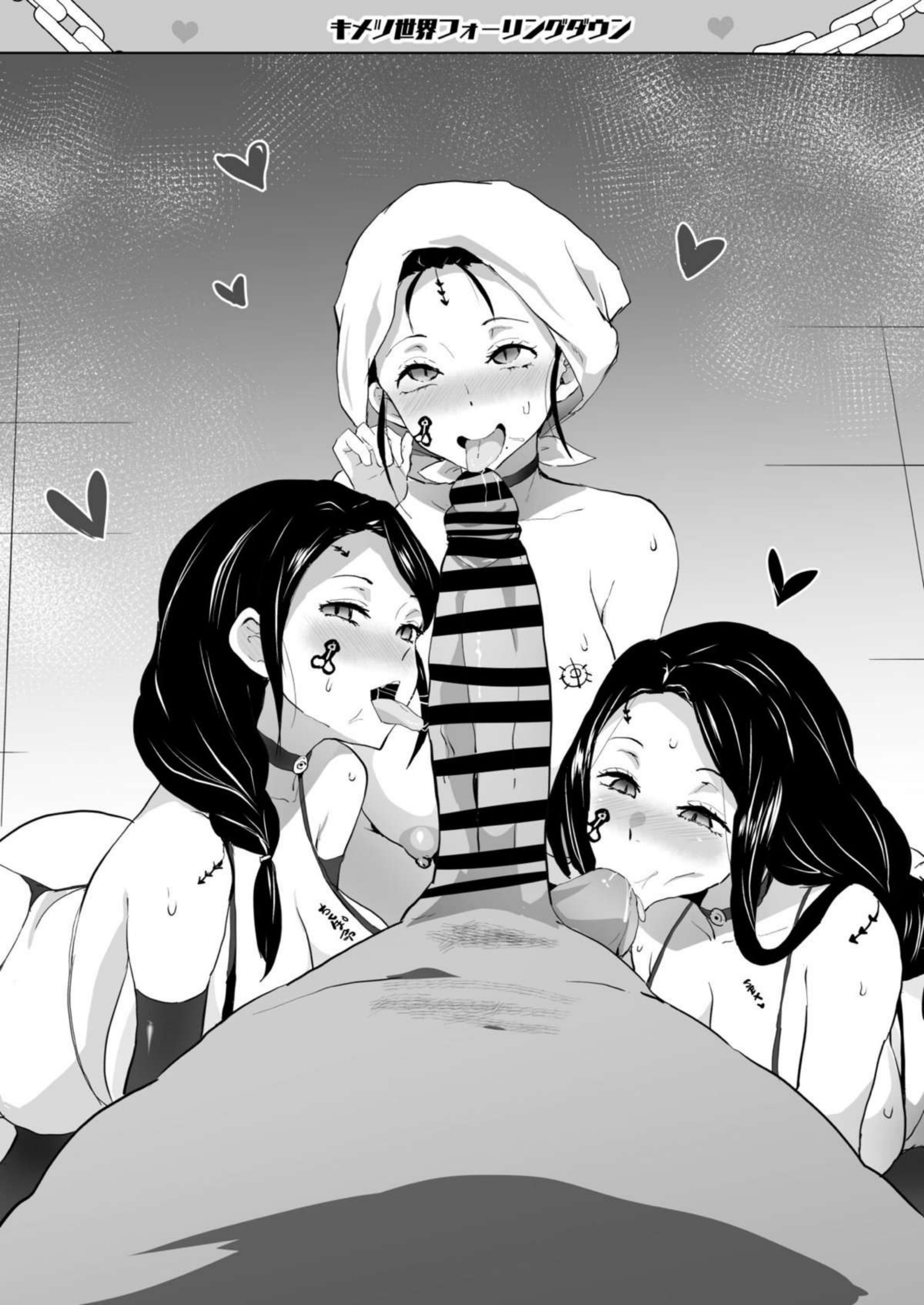
もう取り返しがつかないぐらいに、教祖に心酔してしまったアへ顔を見せている。

華やかな音楽が鳴り、黒い蝶が飛んでいく。

代わりにカナエが花びらを撒き散らした。

エロ踞媚薬パイプの女性達の喘ぎ声の中を、裸でヴァイオリンを演奏しながらあまねと鳴女がエスコートしてくる。

「増柱（ましばしら）」「校長と」鳴柱（なきばしら）」「教頭のアンサンブルが心地よい音色を奏でていた。



そしてその中央には・・・彌豆子がウェディングドレスに身を包んで立っている。

「嫁柱（よめばしら）」 竈門彌豆子が我ら同志を代表して、教祖様に改めてのお慕いと忠誠を誓いたいと思います♪

どうかお愉しみてください♪

そう言う、ドレスの裾をあげながらお辞儀する。優雅なお姫様のように。

だがそんな可愛いものじゃない。

教団の信徒である証の首輪はそのまま、純白のドレスの中で一際目立つ。

ノーパンのお尻や、曝け出した桃色の乳首も卑猥だ。

炭治郎には分かってた。

これは教祖へのアピールが目的じゃない。

自分たちがいかに幸せか・・・配信されている全世界の人たちに見せつけようとしているのだ。

「我ら同志は、この身体の隅々まで教祖様に愛して頂けることが何よりの幸福です♪ オッパイに触れて頂くだけで絶頂しちゃいますし、マンスリなんてすぐに天国イキ♪ お尻を視姦されたらメスイキ確定♪

オチンポ様を恵んで貰えるとか、その立場になれたことに一生感謝しちゃうレベルです♪

こんなに幸せでいいのかな？って浮かれちゃい

ますっ♪

ああんっ・・・教祖様。

どうか未来永劫、我ら同志は途切れることない忠誠を約束しますっ♪

絶対の服従と、永遠の愛を捧げますっ♪

人間を辞めて、それが叶うんです。

本当に幸せえ・・・あひいんっ♪くふう・・・教祖様あ、万歳っ!!

ガクガクと服従の喜びで立ちイキする彌豆子に呼応するように、周りの女性たちも「教祖様、万歳♪」と阿る。

彌豆子の言う通り幸せしかない、満ち足りた世界。

「くくくっ!!最高だっ!!

母豚どもっ!私の精液をぶちまけてやるっ!!存分に味わうがいいっ!!」

「ぶふう・・・んんぶふうっ・・・んんっ♪」

教祖が感極まって、白濁液をぶちまけた。それを顔中で受け止める葵枝たち。

その恍惚の表情が、配信をさらに刺激的なものに変えていく。

誰もが心惹かれる幸せであるかのように・・・

「わ、わたしも・・・あんなふうになんて・・・」

暗い部屋で怪しく光るパソコンの画面。

その前で平凡な主婦の継国うたは自慰をし続けていた。

子どもたちや夫のことなどもう眼中にない。

舌なめずりをして、母豚ハーレムに自分も加わることを妄想するだけだ。

世界は確実に鬼願幸福教に蝕まれていく。

だけどそれが幸福であるなら誰も咎めない。

人間がいなくなり、鬼が支配する世界が訪れようとしていた・・・

おわり

あとがき

この度は
堕つ滅貳を読んでいただきありがとうございました！

鬼滅の同人誌を描くと決めたときにどうしてもやりたかった
鬼堕ちを無事に描ききることが出来ました！

手に取っていただいた皆様にも楽しんでもらえる
内容になっていたら、いいなあ…と思う次第です。

これで完結ではありますが、もしまた鬼滅を
描くとしたらキメツ学園、現代で描いてみたい
(日高さん、寄稿文のほう本当にありがとうございました！！)

やはり原作では亡くなってる魅力的なキャラクターを
出せるのは大きい…。

最後に、今回も多くの方にご支援、応援していただきました！
改めて、ここで感謝をのべさせていただきます！
ありがとうございました！！

次の冬コミもまた同人誌出せるように頑張っていきたいと
思います！！

そして夏…本当にあつい。

さなつき

奥付け

- 発行・著者 さなつき
- サークル アヘアジフ
- Email neko998-aheaji@yahoo.co.jp
- Pixiv 41042507
- Twitter @sanatuki0510
- 印刷 ねこのしっぽ様
- 発行 2023/8/13 コミックマーケット102

小説キメツ学園：

- 著者 日高久志
- pixiv <http://pixiv.net/users/4853918>
- ノクターン <http://xmypage.syosetu.com/x8371q/>



**制作
アヘアジフ**

**この作品は
二次創作であり
原作とは一切関係ありません**

複製・二次創作を禁止する

